

前額皮弁による内眼角の再建 —皮弁の thinning を行った 2 例—

原田 浩史 長江 浩朗

小松島赤十字病院 形成外科

要 旨

腫瘍の切除後に生じた内眼角の組織欠損に対して、前額皮弁による再建を行った。従来この方法では皮弁の厚さのために整容的に問題があり、二次修正術が必要とされてきたが術中に皮弁の先端を thinning し薄い皮弁を移植することによって良好な結果が得られた。Thin flap は近年ほぼ確立された手技であり、薄い組織が必要な部位の再建には非常に有効な方法であると考えられる。

キーワード：Thin flap、内眼角、前額皮弁

内眼角の組織欠損は、腫瘍切除後に生じた組織欠損に起因する。従来この方法では皮弁の厚さのために整容的に問題があり、二次修正術が必要とされてきたが術中に皮弁の先端を thinning し薄い皮弁を移植することによって良好な結果が得られた。Thin flap は近年ほぼ確立された手技であり、薄い組織が必要な部位の再建には非常に有効な方法であると考えられる。

症 例

症例 1 患者は 65 歳の女性で、右内眼角に直径 1.5 cm の腫瘍を切除した。術後、内眼角の組織欠損が生じた。前額皮弁を用いて再建を行った。術中に皮弁の先端を thinning し、薄い皮弁を移植した。術後、良好な結果が得られた。

症例 2 患者は 72 歳の男性で、左内眼角に直径 1.2 cm の腫瘍を切除した。術後、内眼角の組織欠損が生じた。前額皮弁を用いて再建を行った。術中に皮弁の先端を thinning し、薄い皮弁を移植した。術後、良好な結果が得られた。

内眼角の組織欠損は、腫瘍切除後に生じた組織欠損に起因する。従来この方法では皮弁の厚さのために整容的に問題があり、二次修正術が必要とされてきたが術中に皮弁の先端を thinning し薄い皮弁を移植することによって良好な結果が得られた。

前額皮弁を用いて再建を行った。術中に皮弁の先端を thinning し、薄い皮弁を移植した。術後、良好な結果が得られた。Thin flap は近年ほぼ確立された手技であり、薄い組織が必要な部位の再建には非常に有効な方法であると考えられる。

結論として、前額皮弁を用いて再建を行った。術中に皮弁の先端を thinning し、薄い皮弁を移植した。術後、良好な結果が得られた。Thin flap は近年ほぼ確立された手技であり、薄い組織が必要な部位の再建には非常に有効な方法であると考えられる。

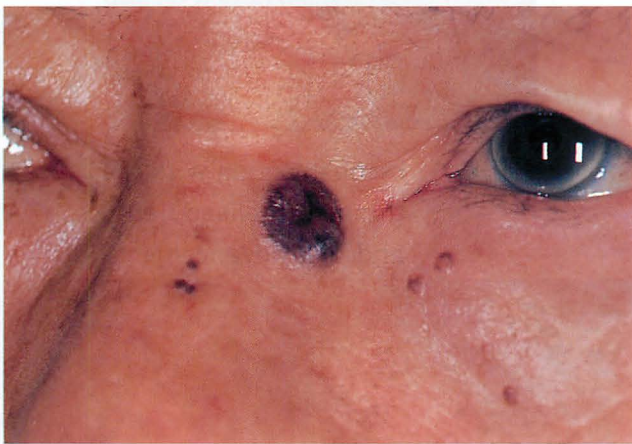
てきた¹⁾²⁾

一方近年の皮弁に対する研究、開発の進歩によって、再建外科は単に被覆するのみならず健常な状態により近い再建が要求されるようになってきた。その流れの中で皮弁の厚さの問題に対する解決策として、thin flap というひとつの新しい概念が生まれた⁴⁾⁵⁾。これは皮下脂肪層をほとんど含まず、主軸化 (axialization) された皮下血管網のみで栄養される薄い皮弁である。皮下血管網は本来 random な血行であるが、皮膚穿通枝と連続したひとつの血行系として主軸化するという考え方で、少量の筋体をつけた筋皮弁の皮膚穿通枝を利用した薄層拡大筋皮弁 (thin extended

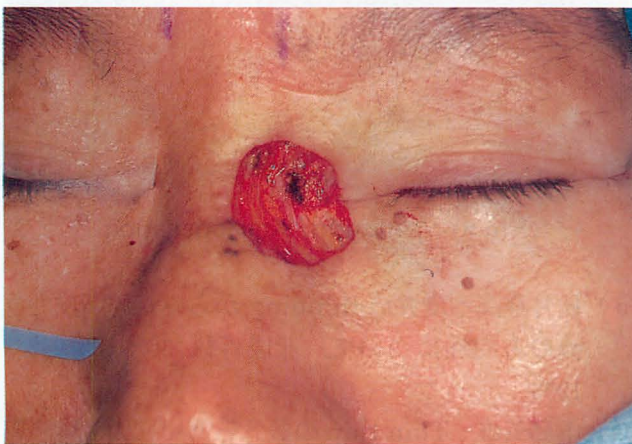
musculocutaneous flap) として広背筋皮弁⁶⁾、腹直筋皮弁⁷⁾ などがほぼ確立され臨床応用されている。

今回利用した前額皮弁も、主軸動脈の皮膚栄養枝が、薄くした先端部の皮下血管網に十分な血流を供給したと考えられ、全層植皮の際に見られるような術直後の色調の変化はなく、全経過を通じて皮弁の色調は正常色のままであった。

従来移植した皮弁を薄めるために二次手術が必要とされてきた前額皮弁による内眼角の再建に、thin flap の概念を利用した今回の再建方法は有用であると思われた。



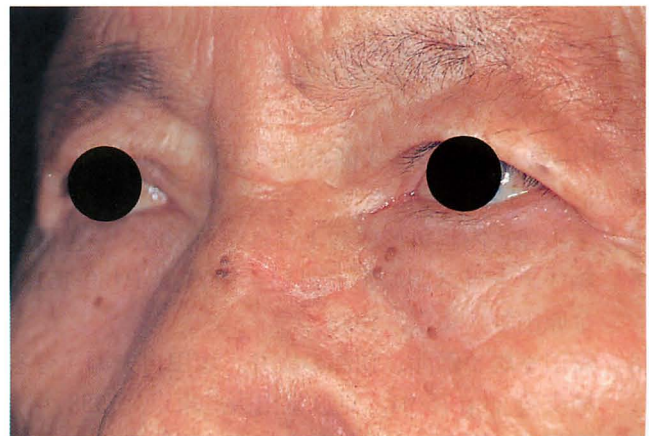
(Fig 1) preoperative view



(Fig 2) round-defect on the medial canthus



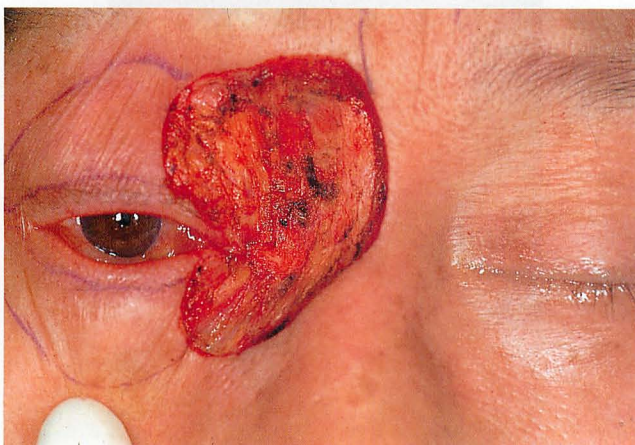
(Fig 3) reconstruction with a thinned forehead flap



(Fig 4) 1 year after reconstruction



(Fig 5) basal cell carcinoma of the medial canthus



(Fig 6) defect of the right upper and lower eyelid contiguous with the medial canthus



(Fig 7) reconstruction with the thinned forehead flap and V-Y advancement flap



(Fig 8) 7 months after operation

文 献

- 1) 小川豊：眼瞼の基底細胞癌の手術. 形成外科 40 : 3-13, 1997
- 2) 小川豊：内眼角形成および外眼角形成. 一色信彦編「アトラス眼の形成外科手術書」, P130-151, 金原出版, 東京, 1988
- 3) 安田幸雄：顔面、頸部の皮弁. 塚田貞夫編「有茎植皮術」, p 75-94, 克誠堂出版, 東京, 1988
- 4) 高建華, 百東比古, 秋元正宇他：超薄皮弁の経験. 形成外科 35 : 1097-1103, 1992

- 5) 秋月種高：皮弁の thinning からみた局所皮弁血流の方向性について. 形成外科 36 : 635-643, 1993
- 6) 中島英雄：Thin flap の概念と薄層拡大広背筋皮弁. 波利井清起, 鳥居修平編「皮弁移植法最近の進歩」, p 90-96, 克誠堂出版, 東京, 1993
- 7) 秋月種高, 山田敦：Thinning flap : 腹直筋皮弁. 波利井清起, 鳥居修平編「皮弁移植法最近の進歩」, p 97-102, 克誠堂出版, 東京, 1993

The use of Thinned Forehead Flap for Medial Canthus Reconstruction

Hiroshi HARADA, Hiroaki NAGAE

Division of Plastic Surgery, Komatusima Red Cross Hospital

The authors report two cases of a reconstruction of medial canthus defect after the excision of basal cell carcinomas. For coverage, forehead flaps were used. The skin in the eyelid is so thin, that the flap become bulky in the conventional procedure.

Based on the new concept, thin flap, the authors have done the intraoperative thinning of flaps. Good blood flow in thinned flaps and good cosmetic appearance were achieved.

Keywords : thin flap, medial canthus, forehead flap

Komatushima Red Cross Hospital Medical Journal 3 : 52-55 , 1998
